

～教科・領域のポイント～

【家庭、技術・家庭】

1. 学習指導要領改訂のポイント

(1) 小学校 家庭科、中学校 技術・家庭科の目標について

- ・教科の目標については、今回の改訂の基本方針を踏まえ、育成を目指す資質・能力を三つの柱により明確にし、全体に関わる目標を柱書として示すとともに、(1)として「知識及び技能」を、(2)として「思考力・判断力・表現力等」を、(3)として「学びに向かう力、人間性等」の目標を示すこととした。
- ・(1)から(3)までに示す資質・能力の育成を目指すに当たり、質の高い深い学びを実現するために、教科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）を働かせることについて示すこととした。

(2) 小学校 家庭科改訂の要点

① 内容構成について

- ・小・中・高等学校の内容の接続が見えるように、「A家族・家庭生活」、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」の三つの内容とした。
- ・三つの内容を、空間軸と時間軸の視点から学習内容を整理した。

② 履修について

- ・内容「A家族・家庭生活」の(1)ア「自分の成長の自覚、家庭生活と家族の大切さ、家族の協力」については、2学年間の学習の見通しをもたせるためのガイダンスとして、第5学年の最初に履修させる。また、内容「A家族・家庭生活」の(4)「家族・家庭生活についての課題と実践」については、実践的な活動を家庭や地域などで行うことができるよう配慮し、2学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させるようにする。

③ 社会への変化への対応について

- ・「A家族・家庭生活」においては、幼児又は低学年の児童、高齢者など異なる世代の人々との関わりに関する内容が新設されている。
- ・「B衣食住の生活」においては、生活や学習の基盤となる食育を一層推進する。また、グローバル化に対応して、日本の生活文化の大切さに気付くことができるよう、日本の伝統的な生活について扱うようにする。
- ・「C消費生活・環境」においては「買い物の仕組みや消費者の役割」に関する内容が新設されるとともに、他の内容との関連を図り、消費生活や環境に配慮した生活の仕方に関する内容の改善を図っている。

(3) 中学校 技術・家庭科（技術分野）改訂の要点

①内容構成について

- ・現代社会で活用されている多様な技術を「A材料と加工の技術」、「B生物育成の技術」、「Cエネルギー変換の技術」、「D情報の技術」の四つに整理し、全ての生徒に履修させる。
- ・各内容は、「生活や社会を支える技術」、「技術による問題の解決」、「社会の発展と技術」の三つの内容の項目で構成する。

②履修について

- ・第1学年の最初に扱う内容の「生活や社会を支える技術」の項目は、小学校での学習を踏まえた中学校での学習のガイダンス的な内容としても指導する。
- ・第3学年で取り上げる内容の「技術による問題解決」の項目では、他の内容の技術も含めた統合的な問題について取り扱う。

③社会の変化への対応について

- ・知的財産を創造、保護及び活用していこうとする態度や使用者・生産者の安全に配慮して設計・製作するなどの倫理観の育成を重視する。
- ・ものづくりの文化や伝統的な技術の継承、技術革新及びそれを担う職業・産業への関心、経済的主体等として求められる働くことの意義の理解、他者と協働して粘り強く物事を前に進めようとする事、安全な生活や社会づくりに貢献しようとする事などを重視する。

(4) 中学校 技術・家庭科（家庭分野）改訂の要点

①内容構成について

- ・小・中・高等学校の内容の接続が見えるように、「A家族・家庭生活」、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」の三つの内容とした。
- ・三つの内容を、空間軸「家庭と地域」と時間軸「これからの生活を展望した現在の生活」の視点から学習内容を整理した。

②履修について

- ・「A家族・家庭生活」の中の(1)については、小学校家庭科の学習を踏まえ、家族・家庭の機能について扱うとともに、中学校における学習の見通しを立てさせるためのガイダンスとして、第1学年の最初に履修させること。
- ・「A家族・家庭生活」の(4)、「B衣食住の生活」の(7)、「C消費生活・環境」の(3)については、これら三項目の内、一以上を選択して履修させ、他の内容と関連を図り扱う。

③社会の変化への対応について

- ・「A家族・家庭生活」においては、幼児との触れ合い体験などを一層重視するとともに、高齢者など地域の人々と協働することに関する内容を新設している。
- ・「B衣食住の生活」においては、食育の内容を一層重視する。また、グローバル化に対応して、日本の生活文化を継承することの大切さに気付くことができるよう、日本の伝統的な生活について扱うこととする。
- ・「C消費生活・環境」においては、計画的な金銭管理、消費者被害への対応に関する内容を新設するとともに、他の内容と関連を図り、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容の改善を図っている。

2. 授業づくりのポイント

(1) 授業展開の工夫

授業を構想する上では、時間配分を含めた具体的な展開を明確にイメージすることが重要です。場面に合わせた具体的な活動や言葉かけを準備しましょう。

- 授業の始まりは、学習内容に対する関心が高まったり、授業のねらいや見通しが確認できる導入となっている。
- 展開1は、基礎的な知識や技能が習得できる、もしくは展開2で活用する知識や技能を確認する内容となっている。
- 展開2は、児童生徒が自分で考えて問題解決をしたり、実践する内容となっている。
- 授業末は、児童生徒自身が授業を振り返り、わかったことや生活で実践したいことを自分の言葉でまとめる活動となっている。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めている。
- それぞれの活動において、適切な時間配分がされている。

《展開例》

	学習活動	準備
導入	【授業の準備（ワークシート、工具・用具、服装等）】 【関心・意欲の醸成】 ○学習内容に関する実物見本や映像等を見せて、興味・関心をひく。 ○本時の目標（学習課題）を確認し、作業等の見通しを持たせる。	実物見本 掲示物 ICT機器
展開1	【知識や技能の習得・確認】 ○教科書や資料集等を活用し、大切なポイントを押さえる。 ○板書をノートやワークシートに写させる。 ○教師の示範や児童生徒の試行体験を通して習得させる。 ○展開2で活用する知識や技能を確認する。	資料集 ワークシート 示範用材料 工具・用具等 ICT機器
展開2	【思考力・判断力・表現力等の育成】 ○展開1で押さえた知識や技能をもとに考えさせる活動（問題解決）を行う。 ○必要に応じて、グループでの話し合い活動や協働活動を取り入れる。 ○参考となる資料や見本、掲示物等を活用し、自力解決を促す。 ○つまづきのある児童生徒には個別に支援する。 【片付け】 ○実習等を行った場合は、安全や環境に配慮して片付けさせる。 ○工具・用具等の数量を確認する。	資料集 掲示物 実物見本 ホワイトボード
まとめ	【学習の振り返り】 ○本時の授業でわかったことや生活で実践してみたいことをノートやワークシートに記述させる。 ○振り返った内容を発表させ、共有する。 ○次時の学習内容の確認等をし、今後の見通しを持たせる。	ワークシート

(2) 板書の工夫

授業内容をわかりやすく伝えるためにも、また児童生徒の思考を深めるためにも、意図的・計画的な板書は必要不可欠です。UDの視点からも、児童生徒にとって見やすい、分かりやすい板書を工夫しましょう。

- 本時の目標（学習課題）が提示してある。
- 大切なポイントや押さえない語句は、カードやICT機器を活用するなどして、板書の時間短縮に努めている。
- 実習の手順や目安時間、留意点等を示し、見通しを持って活動できるように工夫されている。
- 文字の大きさや色、正しい字形など、児童生徒にとって見やすい配慮がされている。
- ICT機器やホワイトボード等を効果的に活用している。

(3) 教室環境の充実

木工室や調理室、コンピュータ室等、児童生徒が活動する教室環境を充実させることは、主体的な学習や実践的・体験的な活動を効果的に行う上で欠かすことができません。児童生徒が安全かつ主体的に活動するためにも、教室環境の充実を図りましょう。

- 工具・機器や用具等が整理整頓されており、準備・片付けがしやすいように工夫されている。
- 清掃が行き届いていて、清潔である。
- 工具・機器や用具等の定期的な点検及び授業前の点検が行われている。
- 教科に関連した掲示物や実物見本、作品例などが充実している。
- 児童生徒の材料が管理しやすいように工夫されている。

(4) 安全指導・安全管理の徹底

製作や実験・実習等の体験的な学習活動では、刃物類や電気、火気など危険が伴うものを使用する場合があります。安全指導・安全管理を徹底し、児童生徒の安全に対する意識を高めましょう。

- 実習等を行うにあたってのルールを、ガイダンスや掲示物等で確認している。
- 活動にあった服装（爪なども含む）のチェックを、授業前にしっかりと行っている。
- 工具・機器や用具等の正しい取扱方法や危険性について指導している。
- 刃物類や薬品等は、鍵のかかる場所に保管してある。
- 活動中に事故やケガが発生した時の対応について確認・把握している。

(5) 題材（製作品等）の選定

資質・能力を育成するためには、実践的・体験的な活動を充実させることが重要です。特に、製作品については費用の掛かるものもあるので、しっかりと吟味して選定しましょう。

- 指導計画や学習のねらいに合っている。
- 授業時間内に完成させることができる。
- 予算は地域や学校の実態に合っている。
- 児童生徒が、生活で使いたいと思えるものである。
- 教師が実際に製作して、児童生徒がつまづきやすいポイント等を把握している。